

# 福山民報

発行  
福山民報社  
福山市津之郷町  
津之郷 970-1  
Tel.084-952-2662  
FAX084-952-2660



原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会 5000人

## 被爆者の声を世界に



広島に原爆が投下されてから79年となった8月6日、原水爆禁止2024年世界大会ヒロシマデー集会在広島市内で開かれました。集会には約5000人(主催者発表)が参加しました。

集会では、「原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さない絶滅だけを目的とした『狂気』の兵器です。…核戦争を無くす最も確かな道は核兵器を無くすことです。核抑止論は『核脅し論』以外の何物でもありません。」という、今年の世界大会国際会議での被爆者・木戸季一さんの発言をもとに、「核兵器のない平和で公正な世界」への道を切りひらくための行動をただちに行うようよびかけた、広島決議「広島からのよびかけ」が採択されました。



福山市原水協代表団と大平よしのが元衆議院議員

(原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会での、田村智子委員長のあいさつを一部紹介します。)

世界に核戦争への深刻な不安が広がるもて、日本は、唯一の戦争被爆国として何をなすべきか。いまこそ「核抑止」論と決別し、核兵器禁止条約への参加を決断すべきではないでしょうか。

被爆79年を目前にした7月28日、日米両政府は、初めて閣僚級会合で「拡大抑止」について議論しました。アメリカの核抑止を日米一体で強化する、そのための協議を進めていくというものです。

「核抑止」とは、いざとなれば核兵器を使うぞという脅しに他なりません。日本がアメリカとともに、広島・長崎の惨状をもたらすこともためらわない、こんな立場をとるといえるのでしょうか。「ノーモア・ヒバクシャ」の叫びを踏みにじる暴挙であり、この道を歩ませるわけには絶対にいきません。

…被爆80年にむけて、「日本は核兵器禁止条約を批准せよ」「そのためにも第3回締約国会議にオブザーバー参加せよ」と、大きな世論と運動をともに起こそうではありませんか。



## 田村委員長が世界大会であいさつ



左から、山添、井上、田村、笠井、仁比の各氏、河村県議

日本共産党議員団は、8月5日、原爆養護ホームを訪れ、入所する被爆者を見舞い、懇談しました。広島赤十字・原爆病院への訪問では、古川善也院長と懇談し、被爆患者の現状の説明を受けました。

田村智子委員長、山添拓政策委員長、笠井亮衆議院議員、仁比聡平、井上哲士、笠井亮両参議院議員、大平よしのが元衆議院議員、河村ひろ子県議らが参加しました。(8月6・7日付しんぶん 赤旗より一部抜粋)

## 国会議員団 被爆者と懇談

## 原爆碑に祈り捧げる

承など意見を交わしました。6日には広島市の平和記念公園で原爆碑に献花し、犠牲者を追悼しました。